

はじめに：趣旨説明



「BL2Cユーザー研究会：

PFの挿入光源における新しい研究の探究」

2009年1月13日（火）～14日（水） -

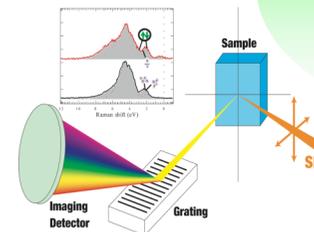
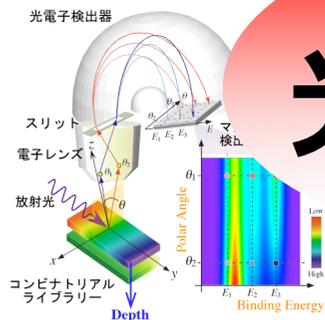
BL2C

CO-VIS

エンドステーション

光電子

発光





「BL2Cユーザー研究会：

PFの挿入光源における新しい研究の探究」

2009年1月13日（火）～14日（水）-

趣旨：近年になりPFでは、軟X線挿入光源ビームラインBL28およびBL16が、更新・整備されてきている。一方で、BL2Cは建設時から大きな改良を行っていない。しかしながら、BL2Cにおける研究の需要は、いまだに増え続けているのが現状である。本研究会の目的は、BL2Cにおけるアクティビティをさらに発展させ、世界とリードする新たな研究展開を探る事にある。そのために、既存のBL2Cユーザーを中心に現状と問題点を確認し、整備・再構築の方針を検討するとともに、積極的に潜在的なユーザーの意見を求め、新たな戦略を探っていく。

発光

1月13日(火)	
9:30-	受付
10:00-10:35	セッションI 導入 1. 趣旨説明(5分): 組頭広志(東京大学) 2. ビームライン2C利用の現状(15分): 足立純一(KEK-PF) 3. ビームライン2A利用の現状(15分): 北島義典(KEK-PF)
10:35-10:50	休憩
10:50-12:00	セッションII 軟X線発光分光 1. 軟X線発光分光器と今後の可能性(15分): 手塚泰久(弘前大学) 2. 準結晶とバルク金属ガラスの軟X線発光分光 (30分): 曾田一雄(名古屋大学) 3. MoO₃の電子状態の異方性とO 1s発光スペクトル (25分): 佐藤仁(広島大学)
12:00-13:00	昼食
13:00-15:00	セッションII(続き) 軟X線発光分光 4. 軟X線発光分光による遷移金属酸化物の電子状態の温度変化の観測 (25分): 田口幸広(大阪府立大学) 5. Ti酸化物のX線ラマンスペクトル (30分): 手塚泰久(弘前大学) 6. 超伝導ポロンドープダイヤモンドの軟X線吸収発光 (30分): 中村仁(電通大) 7. SPring-8における溶液系の軟X線発光実験 (30分): 原田慈久(東京大学)

15:20-18:25	セッションIII 軟X線光電子分光 : 座長 堀場弘司(東京大学) 1. 軟X線光電子分光と今後の可能性(15分): 組頭広志(東京大学) 2. MOSFET用ゲート絶縁膜の光電子分光 (40分): 豊田智史(東京大学) 3. 遷移金属添加二酸化チタンエピタキシャル薄膜の電子構造の放射光光電子分光研究 (30分): 松本祐司(東京工業大学) 4. 二酸化チタン系透明導電体の電子状態 (30分): 一杉太郎(東北大学) 5. 輸送特性による遷移金属酸化物界面の特性評価 (40分): 澤彰仁(産業技術総合研究所) 6. 放射光電子分光でみる酸化物ヘテロ界面の電子状態 (30分): 組頭広志(東京大学)
18:25-	懇親会

CO-VIS

1月14日(水)	
9:00-11:45	セッションIV: CO-VIS 装置 1. CO-VIS装置の利用と今後の可能性(15分): 足立純一(KEK-PF) 2. ベンゼンおよびその誘導体の内殻励起後の解離ダイナミクス (30分): 永谷清信(京都大学) 3. 気相分子の内殻ホール移動過程 (30分): 山崎優一(東北大学) 4. 気相分子の内殻光電子放出における光電子波の干渉と散乱 (30分): 足立純一(KEK-PF) 5. 気相分子のサイト選択的解離 (30分): 岡田和正(広島大学) 6. 水分子およびアルゴンクラスターの軟X線光イオン化解離のダイナミクス研究とそのCO-VISへの応用 (30分): 下條竜夫(兵庫県立大学)
12:00-12:30	セッションV: 今後 1. ビームライン2Cの今後の整備方針案(仮)(15分): 足立純一(KEK-PF) 2. まとめ・総合討論(15分): 手塚泰久(弘前大学)

光電子



「BL2Cユーザー研究会：

PFの挿入光源における新しい研究の探究」

2009年1月13日（火）～14日（水）

趣旨：本研究会の目的は、BL2Cにおけるアクティビティをさらに発展させ、世界とリードする新たな研究展開を探る事にある。そのために、既存のBL2Cユーザーを中心に現状と問題点を確認し、整備・再構築の方針を検討するとともに、積極的に潜在的なユーザーの意見を求め、新たな戦略を探ってゆく。

BL2C@PFならではの研究展開

選択と集中

SPring-8

ALS

APS